



岡崎常太郎氏 (1880-1977) をしのんで

朝比奈正二郎

本会名誉会員岡崎常太郎先生は明治 13 (1880) 年岡山県に誕生されたが、かくしゃく 97 年近くの長寿を保たれて、本年 5 月 26 日に亡くなられた。

岡崎先生は大正 6 (1917) 年、まだ例会のみで出版物を発行するにいたっていない本会 (当時は東京昆虫学会) の発会当時から、すでに会の行事に積極的に参加しておられたから、実に正味 60 年にわたる比類のない長期の会員であられたわけである。もちろん、この発会当時の会員は今日どなたも生存しておられない。この当時を含んで絶えることなく記されている先生ご自身の、いわゆる「岡崎日記」が本会創立 40 周年の際の回顧録 (本会の歴史) をまとめるに当たって貴重な根拠となったことは知る人も少ない。

先生は学習院教授時代に 3 冊の名著 (蝶類, 直翅類, 脈翅類) を出版された。これらは今日のよりに昆虫学入門書やいわゆる色図鑑というもののまだ現れない時代にそれらを代表する図説書であって、当時の唯一のオーソドックスな手引書となったわけである。それは後年 (1930) “コンチュウ 700 シュ” を出されて、いわゆる昭和前期のアマチュア昆虫同好者輩出の機縁を作られたことよりも一時代前のことであった。

岡崎先生はお立場上、多くの日本昆虫学会員一般のように職業昆虫学者としての活動をされることはなかったが、早くより教材動物関係の名著をいくつか編纂しておられ、また博物学雑誌、昆虫世界、動物学雑誌などに教材昆虫や、特に直翅類について多くの緻密な観察の結果を発表しておられる。また早くから衛生昆虫類に関心を持たれたようで、蚊・蠅についての著述があり、戦後はニクバエ類を中心とした野性の蠅類の分類学的研究に打ち込まれた。

岡崎先生からはいわゆる「明治の人」を代表する剛直篤学の方という印象を受けるのであるが、先生を評して逸話がないということが逸話であるというようないい方をするのは誤りであると思う。先生はいつも後進を暖く見ておられ、例年関東支部大会の際などに、特別なご寄付を頂戴することがあって、支部幹事一同恐縮するのが常であった。

略 歴

- 1880 (明治 13) 年 7 月 21 日 岡山県川上郡富家村大字布賀 97 番地に出生
 1902 (明治 35) 年 3 月 岡山県師範学校卒業
 1907 (明治 40) 年 3 月 東京高等師範学校本科博物学部卒業
 1909 (明治 42) 年 8 月 第 22 回全国害虫駆除講習科修業 (名和昆虫研究所)
 1910 (明治 43) 年 1 月 学習院助教授
 1912 (明治 45) 年 4 月~1927 (昭和 2) 年 7 月 同教授
 1927 (昭和 2) 年 4 月~1937 (昭和 12) 年 6 月 東京市教員講習所講師兼視学
 1937 (昭和 12) 年 7 月~1942 (昭和 17) 年 12 月 国語協会常務理事
 1943 (昭和 18) 年 8 月~1950 (昭和 25) 年 8 月 日本赤十字社学芸員
 1961 (昭和 36) 年 10 月 日本昆虫学会名誉会員
 1971 (昭和 46) 年 10 月 カナモジカイ名誉会員
 1977 (昭和 52) 年 5 月 26 日 心筋梗塞のため東京都渋谷区初台内藤病院にて逝去、

戒名 勸学院篤実常照居士

御遺族は嗣子 毅氏 (奈良市在住), 連絡先は次男浩氏 (東京都世田谷区砧 8 丁目 11-6) である。

著作目録 (主なもの)

- 1916 (大正 5) 年 通俗蝶類図説 (東京松邑三松堂)
 1917 (大正 6) 年 通俗直翅類図説 (同)
 1918 (大正 7) 年 通俗脈翅類図説 (同)
 1926 (大正 15) 年 動物教材の根本的研究 (13 名共著)
 1928 (昭和 3) 年 蠅とその駆除法 (山田信一郎と共著)
 1930 (昭和 5) 年 コンチュウ 700 シュ (松邑三松堂)
 1943 (昭和 18) 年 防火用の水ために於ける蚊の観察 (福井玉夫編 自然観察の方法とその実例 東文館)
 1957 (昭和 32) 年 コン虫学校 (東京陸水社)
 1958 (昭和 33) 年 平山城址公園およびその付近の肉バエ. 新昆虫, **11**(5), 31-34.
 1971 (昭和 46) 年 わたしの昆虫誌一むしとひとと自然 (東京啓学出版)
 1976 (昭和 51) 年 多摩丘陵のニクバエ. 昆虫と自然, **11**(8), 27-28.

ほかに理科教育と国語国字に関する著作が多数ある。先生は還暦を迎えられたあともハエ類を主とした野外調査に赴かれ、自然教育園に 1953, 1954 の両年中 54 回、平山城址公園などの多摩丘陵に 1954 年から 1962 年にかけて実に 154 回もの採集を試みられてその健脚ぶりを発揮された。